

## ■ リスク管理の体制

金融環境の急速な変化により、リスクは信用リスク、事務リスク、金利リスク、流動性リスク、市場リスクなどその範囲と内容はますます広がりを見せております。

当金庫は、こうしたリスクを十分認識し、その管理の充実を図るため規定の整備や運用ルールの見直し、チェック体制の強化に努めております。

### リスクの種類

- ・信用リスク  
貸出先の財務状況の悪化等により、資産価値が減少ないしは消失し、損失を被るリスクのことであります。
- ・市場リスク  
金利、有価証券の価格、為替等さまざまな市場のリスク要因の変動によって、保有する資産の価値が変動し、損失を被るリスクのことであります。具体的には金利リスク、価格変動リスク、為替リスクがあります。
- ・流動性リスク  
予期しない資金の流失等により、通常よりも著しく高い金利で資金調達を余儀なくされたり、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされるなどにより、損失を被るリスクのことであります。具体的には、市場流動性リスクと資金繰りリスクがあります。
- ・事務リスク  
役職員が正確な事務を怠る、あるいは事故・不正等を起すことにより損失を被るリスクのことであります。
- ・システムリスク  
コンピュータ・システムのダウンまたは誤作動等、システムの不備等に伴い損失を被るリスク、更にコンピュータが不正に使用されることにより、損失を被るリスクのことであります。

## ■ 法令等遵守の体制

信用金庫は地域金融機関として、中小企業の育成や地域社会の繁栄に奉仕するという高い社会的使命を担っています。

当金庫は、この使命を達成するため公共性と社会的責任を自覚し、健全な金庫の運営に努め、法令等の遵守を経営の最重要課題のひとつと位置付けています。当金庫はコンプライアンス・マニュアルを制定し、その内容を役職員へ周知徹底を図り、内部管理体制の充実に努め、自己責任のもと業務の健全性と適切に配慮しております。

## ■ リスク管理債権

### 1. 破綻先債権・延滞債権に対する担保・保証及び引当金の引当・保全状況

(単位：百万円)

区 分	平成17年度末	平成18年度末
破綻先債権額 (A)	494	393
延滞債権額 (B)	3,949	3,682
合計 (C) = (A) + (B)	4,444	4,076
担保・保証額 (D)	3,125	2,883
回収に懸念がある債権額 (E) = (C) - (D)	1,319	1,193
個別貸倒引当金 (F)	1,296	1,176
同引当率 (G) = (F) / (E) (%)	98.25%	98.57%

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。(以下の各表における金額についても同様です。)

### 2. 3カ月以上延滞債権・貸出条件緩和債権に対する担保・保証及び引当金の引当・保全状況

(単位：百万円)

区 分	平成17年度末	平成18年度末
3カ月以上延滞債権額 (H)	0	—
貸出条件緩和債権額 (I)	106	102
合計 (J) = (H) + (I)	107	102
担保・保証額 (K)	43	41
回収に管理を要する債権額 (L) = (J) - (K)	64	62
貸倒引当金 (M)	10	6
同引当率 (N) = (M) / (L) (%)	15.62%	9.67%